

職員研修報告

研修名	法人研修 保育所保育指針について
主催者	尚徳福社会
日時	令和元年10月19日
会場	AP 新宿
講師名	巽輪 潤子 氏
参加人数	名

研修内容と今後の課題

研修内容

<保育所保育指針改定の背景>

- ・全ての子どもに質の高い教育、保育を提供することを目標とした制度

<保育所保育指針の改定の方向性>

① 乳児、3歳児未満児保育の記載の充実

- ・発達連続性、つながりの重視は変わらず、各時期の発達の特徴を踏まえた保育内容を各園で創意工夫し充実したものとする。
- ・自分でしようとする気持ちを尊重し、受容的、応答的に行われる保育の重要性。

② 幼児教育の積極的な位置づけ

〈幼児教育を行う施設として共有すべき事項〉

- ・遊びを通じた総合的な指導から資質、能力の3つの柱を一体的に育む。
- ・幼児期までに育て欲しい姿は、方向性であり、到達目標ではない。5領域の生活をしっかり踏まえていくことが大切である。

③ 健康及び安全の記載の見直し。

- ・子どもの生命保持と情緒の安定が保たれ、健やかな生活が確立されることは保育の基本。
- ・アレルギーを有する子どもの保育に当たった対応。
- ・食に関する取り組みは、調理士などと連携しながら、食育の環境を整えていく。
- ・子どもの経験を奪わないように、遊びを通じて自ら危険なことがわかる力をつける。

④ 子育て支援の章を新設

〈子育て支援に関する基本事項〉

- ・子どもの育ちを保護者と共に喜びあうことを目指す。
- ・保護者の状況に配慮した個別の支援。
- ・子どもの最善の利益は何かを考えていく。

⑤ 職員の資質、専門性の向上

- ・保育所職員に求められる専門性。
- ・保育の質向上に向けた組織的な取り組み。

保育所保育指針についての今回研修参加により、大切なことを再確認しながら、私自身、日々の保育をふりかえられる時間を与えられありがたく感じた。

子どもの気付き、発見、不思議さ、面白さに共感する大切さや子どもの姿の捉え方や関わりの重要性を再確認した。

それは、ありのままの子どもの姿を受けとめたうえで、保育の核となる5領域を踏まえ、日々のあそびや生活の中で、どれだけ子ども自身で選択をして、試行錯誤できる環境となっているのかである。

あそびが変われば経験が違う、経験が違えば育ちが違うのは当然である。

同じ活動でも、一人ひとりの子どもが経験することは異なるはずである。それぞれの子らしい学びをもって深く関わる体験、経験となり、その体験がどんな意味があり、新たな体験、意欲、興味関心につながるのかを見極めていきたい。

そのためには、どのような保育環境がその子どもにふさわしいのか、今の子ども姿や育ちをしっかりと捉え、日々の保育をふりかえり、自分自身の保育向上につなげていきたい。